



石垣島を戦場にせない 沖縄県石垣市議 元自民党石垣支部幹事長 といた よしゆき 芳行さん

石垣島に長射程ミサイルを配備するといは、島が戦場になってしまつという重大な危険性をほらんでいます。石垣島の総意として島を戦場にしない、配備は認められないと声を上げていべきだと思つていてます。

私は自衛隊の配備そのものは必要だうといひとて推進してきました立場です。ただ、配備計画が持ち上がった当

沖縄県石垣市議
元自民党石垣支部幹事長

といた よしゆき
芳行さん

時、防衛省側の説明は島々を守つていくためといふのです。明確な攻撃の意思をもつて近づく敵勢力に対し、迎撃するためだと。他国に届くミサイルではないと言つていいのです。

しかし、長射程ミサイルは相手國に直接届き攻撃できまます。日本政府が念頭におへ中國からすれば、自國に撃ち込まれるミサイルが自らの先

射程ミサイルが自らの知らぬうちに配備される恐れもあります。防衛の手の内は明かせないとする理屈があるからです。だからこそ市民の現段階で容認できないことは、そのと書つておきます。

私は中国が台湾に侵攻する場合、バイデン米大統領は介入すると明言しています。日本本の米軍基地から米軍が出撃するようになれば、中国が自衛のためとして裏方にミサイルを発射するのは石垣島ではないでしょうか。

そうした危険を呼び込む長射程ミサイルが自らの知りなきうちに配備される恐れを起させないのです。外交だけなく中国、台湾との経済的依存関係も生かし、日本は国を挙げて取り組む必要があります。そのためにも長射程ミサイルが石垣に配備される以上の重大性、危険性を広く市民に知らせなければと考え

ります。(開拓手 因素論)

石垣島を戦場にせない

「琉球新報」2月15日付のインタビューで「大きな懸念はない、基本的に容認だ」と述べたと報じられました。私は議会で質問しましたが、中山市長は否定も肯定もせず、はぐらかすだけでした。

一方、中山市長や自公政権を支持する市議たちは、有事の際に市民をひつ避難させるに議論を向けています。で

すが、避難できたとしても戦場になれば、この島で「元の日常を取り戻せない状況になるかも知れない。

いま大事なのは逃げる事ではなく、絶対に「危機構成」を超させない事です。外交だけでなく中国、台湾との経済的依存関係も生かし、日本は国を挙げて取り組む必要があります。そのためにも長射程ミサイルが石垣に配備される以上の重大性、危険性を広く市民に知らせなければと考えています。(開拓手 因素論)